大人にも多い
鼠径（そけい）ヘルニア

太ももの付け根膨らむ
はみ出した腸戻す手術必要

太ももの付け根辺りが膨らむ鼠径（そけい）ヘルニアは、子供ばかりでなく大人にも多い病気だ。上都賀総合病院（栃木県）の十川康弘院長（外科）は「太ももの付け根に膨らみや違和感があったら、ためらわず外科を受診して」と強調する。

痛み伴うことも

鼠径ヘルニアは、いつとはなしに鼠径部（太ももの付け根）にしこりのような膨らみが現れる。膨らみは立つと飛び出るが、横になると引っ込むという特徴があり、重苦しいような違和感や軽い痛みを伴うこともある。放っておくと、だんだんと膨らみが大きくなり症状が強まることが多い。

この病気は脱腸とも呼ばれているように、本来ならおなかの中に収まっているはずの大腸や小腸などが、それらを覆っている腹壁から皮膚の下にはみ出てくる病気だ。女性では卵巣や腹水がはみ出ることもある。

ほとんどの場合、命にかかわることはないが、はみ出した腸などが腹壁の出口部分で締め付けられ元に戻らなくなることがある。これを嵌頓（かんとん）ヘルニアといい痛みが強まる。腸などの血流が悪くなって命にかかわることもあるので、緊急手術が必要だ。

3～4日の入院

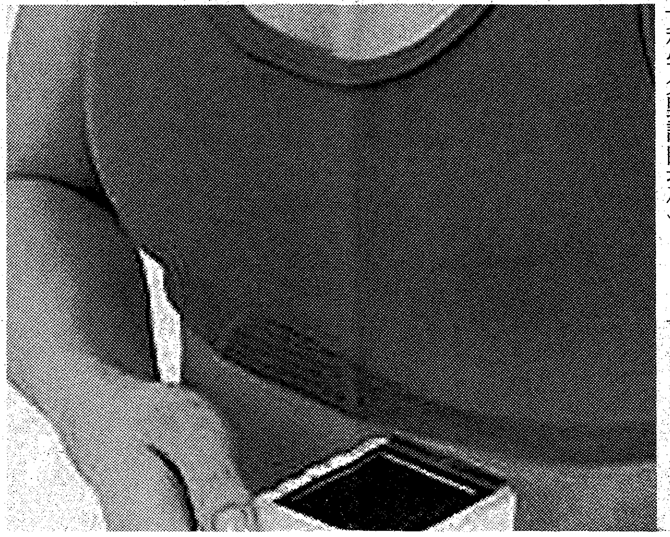
治療ははみ出した腸などをおなかの中に戻し、出口をふさぐ手術以外にない。現在はほとんどポリプロピレンなどの合成繊維のメッシュ（網）で穴をふさぐ手術が行われる。メッシュの形状や入れ方によって幾つかの異なる方法があるが、通常、3～4日の入院で済み、日帰り手術も可能。再発率は1～5％と低い。上都賀総合病院では、さらに改良した方法で行っているが入院期間や再発率は同程度だ。

いずれの手術も鼠径部などを5～6㌢切開する。一方、同じメッシュを用い、腹腔（ふくくう）鏡で手術を行う医療機関もある。術後の復帰はデスクワークや家事なら3～4日後、立ち仕事は1週間から10日、重い物を持つ仕事なら2週間後からが目安。

十川院長は「恥ずかしい病気と思われていたり、手術が必要な病気とは知らなかったりして、受診していない人が少なくありません。違和感や痛みがあれば言うまでもなく、膨らみだけでも気になるようなら、悩みを解消するために手術を勧めます」と助言する。（メディカルトリビューン＝時事）

◇　◇

上都賀総合病院の所在地は、〒322―8550　栃木県鹿沼市下田町1の1033。電話0289（64）2161（代表）。



直接胸に当てて記録するタイプの携帯型心電計（笠巻祐二・日大医学部循環器内科学分野講師提供）

いつでも心電図を記録

簡単便利な携帯型心電計

年齢と聴こえ ⑦

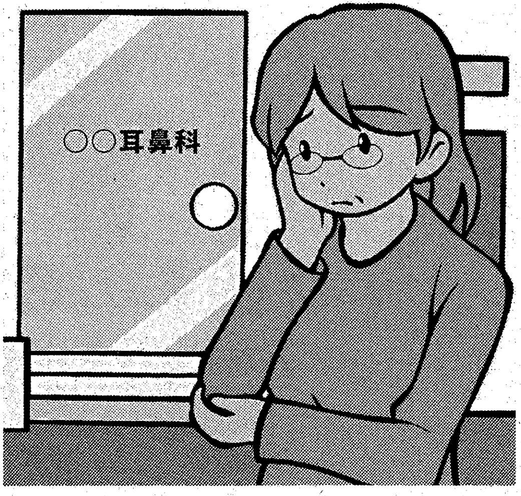
40歳過ぎたら定期検診を

聴力の低下、軽視しないで

これまで何も自覚症状はなく、日常騒音にさらされ続けた経験もないのに、40歳を過ぎたころから聴覚に支障が生じる人がいます。

会話の中で聞き取れない部分が出てくる。雑踏の中で友人からの呼び掛けに気付かない。携帯電話が鳴っているのに、部屋のどの方向から呼び出し音が聞こえてくるのか分からない。そんな自覚症状で始まることが多いようです。

これらの多くは、加齢による自然な聴力の低下です。しかし、「年のせい」と簡単に片付けられないこともあります。実際は聴覚の低下していく速度が他の人よりも速く、放置していると「聞こえない」場面が増え、60歳を過ぎて補聴器が必要になることもあります。



はっきりした原因が見当たらない場合も、日常生活の中で「音に気を使う」ことを心掛けましょう。例えば、他人から話し掛けられたときは、その人の顔に向け、集中して聴く。さまざまな音が聞こえる場面では、どのような音が混ざっているか聞き分けるようにする。音を「意味のある音」として「聴き入る」ことで、音を識別・分析する脳の働きを活性化し、加齢による衰えをカバーし、遅れさせることができるのです。

特に耳に過度のストレスを与え続けてきたような人は、何らかの疾患で聴力の減退が早い場合もあります。例えば、騒音にさらされ続け

きた人

この

も、積

こうし

す。対

く、で

処して

その

に発見

によっ

も、変

的な検

は、緑

活に大

てくる

受ける

は大丈

（目

トはス